

事業所における自己評価結果 (公表)

公表：令和6年3月29日

事業所名 東京都立東大和療育センター分園よつぎ療育園  
※保護者等向けアンケートは利用者がいなかったため未実施

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	7	基準は満たしている。スペースは十分とは言えず、安全の確保のため医療機器の設置場所等に留意している。	スペースを有効活用するための内部改修などを検討していきたい。
	②	職員の配置数は適切である	7	3	多職種の情報共有・連携を行っている。	職員アンケートでは看護職を増やして欲しいという要望があった。サービス提供現場の状況に応じた職員配置に留意していきたい。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	3	サービス事業間で動線が重なるため、安全の確保には留意している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	3	建物の老朽化は進んでいる。メンテナンスや清掃・消毒による衛生・環境整備に努めている。	環境改善のための内装リフォームなどを検討していきたい。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	4	幹部から成る運営会議の議事録は全職員に回覧している。職員の意見を議題に反映している。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	3	第三者評価の保護者アンケートの結果は、定量的・定性的に分析し、事業計画策定時の参考としている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	3		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	1	第三者評価の「さらなる改善が望まれる点」は事業計画策定時の参考としている。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	1	研修委員会による園内研修に加え、外部研修の参加を促している。	外部研修のレポート作成、伝達研修などを通じて園内で情報共有している。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11	0		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	4		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	3		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11	0		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	3	担当者が起案したものをチームで意見を出し合い公式化している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	2	新たな活動プログラムと繰り返した方が良いプログラムを効果に応じて織り交ぜている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	3		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11	0	毎日、支援開始前に、医療情報の伝達、当日の受け持ちや活動などを確認している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11	0	毎日、支援後のミーティングにおいて、利用者の状況や活動内容について振り返りを行っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	2	電子カルテ機能の活用により、個別支援計画や療育記録などを共有している。	療育に特化したシステムの導入を検討している。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11	0	多職種で生活面、健康・医療などの観点からモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	0		
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	1		
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8	3	特別支援学校などと情報交換を行い、連携して利用者の在宅生活を支援している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
者との連携関係機関や保護者との連携	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	11	0	主治医、訪問看護事業所などの在宅サービス事業所などと情報交換を行い、連携して利用者の在宅生活を支援している。	
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	2		
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	1	特別支援学校教員と連携し、適切なサービス提供に努めている。	
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	7		
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	10		
	②⑨	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	8	特別支援教育推進委員会や地域医療システム検討会に参加している。	
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	0	家族の要望を聴取し、日々の活動に反映できるよう努めている。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	5	自宅で役立つ内容などを情報提供している。家族からの質問や在宅生活での対応方法について多職種により、多角的な助言を行っている。	
保護者へ	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	1	医療ソーシャルワーカーが変更点などを丁寧に説明している。	
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9	1		
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11	0	家族が職員に気軽に要望を言えるよう努めている。相談内容に応じて生活支援員や医療ソーシャルワーカーが個別に対応している。	
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	1	保護者会や個別面談などの機会に多職種で関わり、家族との情報交換・情報共有に努めている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
の 説 明 責 任 等	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11	0	子どもや保護者からの相談や申入れについて、内容に応じて組織的に対応できる体制を整えている。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	0	季刊誌の発行、連絡ノート等を通しての情報交換を行っている。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	11	0	入職時のオリエンテーションはもちろんのこと、日々の活動の中でも個人情報の取扱いに注意している。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11	0	視線やまばたき、四肢の動きから、利用者の快・不快を含めた気持ちの読み取りに努め、寄り添う姿勢で関わっている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	9		
非 常 時 等 の 対 応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	3		最新の標準的な内容なるように定期的な見直しを行うよう努めている。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	2	利用者・家族も含めて安否確認訓練を実施している。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	11	0		新たに「処方内容確認書・投薬依頼書」の様式を作成し、家族と事業所で双方向チェックの仕組みを導入している。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11	0	毎朝の全体ミーティングで栄養士と看護師が献立、食材のダブルチェックをしている。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	1	インシデント報告作成の徹底、園内LANを通じた各部署での内容確認を行っている。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	1	外部専門研修内容を全員参加の伝達研修により学び・共有を行っている。	利用者の権利擁護に関するチェックリストを活用して、職員が自己点検を行っている。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	11	0	ケース会議等で医師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー等で検討し、医師から説明し、同意を得ている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。